

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局 男女共同参画推進部
連絡先	582-2405

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	子育て等家庭生活や地域活動における男性の参加促進
-----	--------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子育て等家庭生活や地域活動において男女共同参画が十分でないことから、男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて男性向け家事・子育て関連講座を開催するとともに、NPO等と協働で地域における広報啓発事業を実施し、男性の家事・子育てや地域活動への参画を積極的に進めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 働き方の見直し

【手】 目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由			
		当初の予定	・男性向け家事・子育て関連講座の開催(ムーブ:2講座、レディス:6講座) ・地域における広報啓発事業	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度		平成22年度と同程度		
		これまでの進捗状況・今後の予定	・男性向け家事・子育て関連講座の開催(ムーブ:6講座、レディス:8講座) ・地域における広報啓発事業(33回)	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度	平成22年度と同程度		平成22年度と同程度		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成22年度	平成23年度	目標		
		ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座開催数					計画	8 講座	8 講座	年度	-
		男性の家事・子育てや地域活動への参画を積極的に進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男性向け家事・子育て関連講座を開催します。					実績	14 講座		内容	-
							達成度	175 %	%		
		ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座参加者数					計画	- 人	- 人	年度	-
		男性の家事・子育てや地域活動への参画を積極的に進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男性向け家事・子育て関連講座を開催します。					実績	407 人		内容	-
	達成度						%	%			
コスト	事業費					312,098 千円	311,475 千円				
	うち一般財源					312,098 千円	311,475 千円				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度はムーブ等において男性向け料理講座等を開催しましたが、予想を上回る好評のため、講座開催数を当初計画の8講座から14講座に増やして実施し、407人の参加者を集めるなど、男性の家事参画を積極的に進めることができました。また、NPO等と協働で、男女共同参画に関する広報啓発事業を市内一円で実施し(33回、1,875人参加)、男性の家事、子育て、地域活動等への参加を促進しました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	子育て等家庭生活や地域活動における男女共同参画を進める上で、男性向けの意識啓発及び具体的な生活技術等を習得させる講座等の開催は効果が高く、仕事と子育ての両立支援の実現に寄与するものであると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入しており、また、NPO等と協働で事業を実施することにより、経済性、効率性は高いと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	市民意識調査の結果等を見ても、仕事と子育ての両立支援に関して、子育て等家庭生活や地域活動における男女共同参画は早急な対応が求められている課題であり、適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	男女共同参画は民間任せでは進展が難しく、本市はもとより国においても行政が主体となって基本計画を策定し、行政自らが事業主体となって実施しています。当事業は効率性の観点から指定管理制度やNPO等を活用していますが、あくまで市の事業として実施するものです。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。		ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、仕事と子育ての両立支援を図っていく上で重要な事業であると考えており、今後も着実な取り組みを進めていくことが適当だと考えます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	・男性向け家事・子育て関連講座の開催(ムーブ:2講座、レディス:6講座) ・地域における男女共同参画に関する広報啓発事業の実施(30回)	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	---	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
----	----	--------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局 男女共同参画推進部
連絡先	582-2405

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	男女共同参画フォーラムin北九州開催支援
-----	----------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	男女共同参画社会の実現を目的として、北九州市女性団体連絡会議と協働で「男女共同参画フォーラムin北九州」を開催し、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 働き方の見直し

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催		
	これまでの進捗状況・今後の予定	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催(6~9月)	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催	「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催			
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)			平成22年度	平成23年度	目標		
		「男女共同参画フォーラムin北九州」実施回数			計画	-	-	年度	-
		北九州市女性団体連絡会議と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。			実績	37 回		内容	-
		「男女共同参画フォーラムin北九州」参加者数			計画	-	-	年度	-
	北九州市女性団体連絡会議と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。			実績	3,385 人		内容	-	
	コスト				事業費	2,350 千円	2,843 千円		
					うち一般財源	2,350 千円	2,843 千円		

【事業の実施結果・進捗状況の確認】		
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	北九州市女性団体連絡会議と協働で「男女共同参画フォーラムin北九州」を市内一円で開催し、概ね計画どおり広報・啓発活動を行いました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3	男女の固定的役割分担意識解消のためには、広報・啓発等による正しい理解の促進が有効な手段であると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	NPOである北九州市女性団体連絡会議と連携を図りながら広報・啓発活動を実施しており、経済性・効率性は高いと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	地域に根強い男女の固定的役割分担意識解消のためには、継続的な広報・啓発活動が必要であり、適時性は高いと考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。		4	本施策は社会全体の問題であるが、行政等による積極的改善措置(ポジティブ・アクション)が必要な現状で、今後も市を中心としてNPO等関係機関との連携を図りながら、取り組む必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、男女共同参画社会の形成を推進する上で重要な事業であり、今後も市内全域で地域に密着した活動を行っているNPO等と協働して、目標の達成に向けた継続的な取り組みを進めていくことが適当であると考えます。	

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	北九州市女性団体連絡会議等関係機関との連携を深め、「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催を通じて積極的に広報・啓発活動を行い、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。	前年度に評価した今後の方向性

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
---------------------	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局 男女共同参画推進部
連絡先	582-2405

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	小中学校向け男女共同参画副読本の作成及び活用促進
-----	--------------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	男女共同参画についての基本的な項目を分かりやすくまとめた副読本を、小中学生に配布し、子どもの頃からの男女共同参画意識の定着や進路選択の参考として役立てます。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 働き方の見直し

【手】	目的実現の為に実施する内容	年度					計画変更理由
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
		実施工程	当初の予定 ・小学5年生用副読本「レッツ」作成、配布 ・中学1年生副読本「ひびき愛」作成、配布 これまでの進捗状況・今後の予定 ・小学5年生用副読本「レッツ」作成、配布(3月) ・中学1年生副読本「ひびき愛」作成、配布(3月)	・小学5年生用副読本「レッツ」作成、配布 ・中学1年生副読本「ひびき愛」作成、配布	・小学5年生用副読本「レッツ」作成、配布 ・中学1年生副読本「ひびき愛」作成、配布	・小学5年生用副読本「レッツ」作成、配布 ・中学1年生副読本「ひびき愛」作成、配布	
実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)		平成22年度	平成23年度	目標		
	小中学校における副読本活用率	計画	-	-	年度	平成25年度	
	道徳・総合学習の授業やホームルーム等の学級活動において副読本を活用し、子どもたちに男女共同参画意識の定着を図ります。	実績	91.1 %		内容	100%	
		達成度	-		年度		
		計画			内容		
		実績			年度		
		達成度			内容		
コスト		事業費	2,339 千円	3,894 千円			
		うち一般財源	2,339 千円	3,894 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	小学5年生・中学1年生向けの副読本(各10,250部)及び教員向け活用の手引き(各700部)を作成・配布し、道徳・総合学習の授業やホームルーム等の学級活動において活用してもらうよう教育委員会に働きかけ、概ね計画どおり取り組みました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	4	子ども達に男女共同参画の意義をわかりやすく説明するため、副読本活用の有効性は高く、また、家庭に持ち帰って家庭教育の中でも生かすことができ、本事業の波及効果は大きいと考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	新学期の教科書配布に併せて各学校に配布しており、配送料等の経費節減に努めるなど経済性・効率性は高いと考えます。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		4	子どもの発達段階に応じて男女共同参画意識を定着させ、また、進路選択の参考とするためには、この時期の事業実施が適当であると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。		4	義務教育における男女共同参画意識の定着は行政の責務であり、本市はもとより国においても基本計画を策定し、行政自らが実施主体となって行うものです。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ア	本事業は施策に対する有効性も高く、子どもの頃からの男女共同参画意識の定着が人権教育においても重要であることから、今後もさらにわかりやすいものにするため、副読本の内容等を見直しながら、目標の達成に向けて継続的に取り組んでいくことが適当であると考えます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	平成23年度は副読本の内容等の改正時期(5年に1回)であり、教育委員会等関係機関と協議しながら、データの更新など現状に即した内容に見直すとともに、教育現場での活用率の増加を働きかけていきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成 22 年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
--	----	----	----	----

担当局/課	子ども家庭局 男女共同参画推進部
連絡先	582-2405

政策分野	仕事と子育ての両立支援
------	-------------

事業名	若者層向け男女共同参画広報・啓発事業
-----	--------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。 その結果、実現を目指す施策名	高校生や大学生などの若年層に対し啓発パンフレットを作成・配布し、就労の重要性やワーク・ライフ・バランスなど、男女共同参画に関する啓発を行います。 施策名 働き方の見直し
---------	---------------------------------------	--

【手】 目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布		若年層向け啓発パンフレット作成・配布	
	これまでの進捗状況・今後の予定	若年層向け啓発パンフレット作成・配布(6~1月)	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布	若年層向け啓発パンフレット作成・配布			
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)				平成22年度	平成23年度	目標		
		若年層向け広報啓発事業等におけるパンフレット配布人数				計画	-	-	年度	-
		NPO等と協働で若年層向けに実施する広報啓発事業等において、啓発パンフレットを配布し、若年層に対して男女共同参画に関する啓発を行います。				実績	798 人		内容	-
						達成度	-		年度	
						計画			年度	
						実績			内容	
	コスト					事業費	473 千円	2,381 千円		
うち一般財源						473 千円	2,381 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 男女共同参画啓発冊子「わりかん!?わりとかんたん!?男と女のいい関係。」を増刷して、高校生や大学生など若年層対象の「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業等で配布・啓発し、概ね計画どおり実施しました。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。 経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。 適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。 市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	4: 高い 3: やや高い 2: やや低い 1: 低い	3 3 4 4	就労の重要性やワーク・ライフ・バランスなど、若年層に対する広報・啓発等による正しい理解の促進が、施策の実現に対し、有効な手段であると考えます。 NPO等と協働で実施している若年層向けの広報啓発事業等において、啓発パンフレットを配布することにより、経済性・効率性は高いと考えます。 義務教育を終え社会人となる前に、就労の重要性やワーク・ライフ・バランスなど男女共同参画に関する意識を啓発することにより、進路選択の幅も広がるため、この時期の事業実施が適当であると考えます。 本事業は民間任せでは進展が難しく、本市においても基本計画を策定し行政自らが実施主体となって行うものです。今後も市を中心としてNPO等関係機関との連携を図りながら、取り組む必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、若年層に対する男女共同参画の啓発により、少子化対策や女性の活躍推進など波及効果も大きいと見られ、今後も市内全域で活動を行っているNPO等と協働して、目標の達成に向けた継続的な取組みを進めていくことが適当であると考えます。

【次年度計画】		
目的実現のために23年度に実施すること	NPO等関係機関との連携を深め、「地域における男女共同参画推進啓発事業」やムーブの講座・出前講演等を通じて積極的に広報・啓発に取り組めます。	前年度に評価した今後の方向性